

23年度決算認定

今回の議会には、平成23年度一般会計・各特別会計の決算認定議案が上程されました。決算特別委員会での審査後本会議において、一般会計を賛成14名、反対1名で、また、各特別会計については全会一致で可決、認定しました。

町長が決算議案を提出



石塚町長が決算を提出

決算認定の議案を提出するにあたり、町長から、23年度は3月11日に東日本大震災が発生し、被災地支援、計画停電対応、熱中症対策、放射能汚染の実態把握などに追われる中で始まりとなったが、瑞穂町第4次長期総合計画がスタートし、「みらいにずっとほこれるまち」の形成を目指して、新たな施策体系に基づき、各種事業を実施した、との説明がありました。なお、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定により、普通会計における健全化判断比率は健全であるとの報告がありました。

「健康で元気なみずほ」

- 皆でささえ健やかに暮らせるまち
- ・おたふく風邪と水ぼうそうの選択制予防接種助成事業開始
 - 生きがいとふれあいのあるまち
 - ・「シルバーまちかど」の一部を地域交流拠点として整備

「一人ひとりが輝くみずほ」

- 豊かなこころを育むまち
- ・第三小学校校庭芝生化
 - 一人ひとりが生涯輝けるまち
 - ・「シクラメンスポーツ公園」完成
(第68回国民体育大会ソフトボール会場)

「魅力ある温かいみずほ」

- 活力とにぎわいのあるまち
- ・「水・緑と観光を繋ぐ回廊計画」策定
 - 人がつながる温かいまち
 - ・長岡コミュニティセンター開館

「安全安心やさしいみずほ」

- 安全に安心して暮らせるまち
- ・瑞穂町耐震改修促進計画策定
 - 地球を守る環境にやさしいまち
 - ・箱根ヶ崎南会館へ太陽光発電設備設置

「快適で美しいみずほ」

- 美しい街並みの住みよいまち
- ・駅西・殿ヶ谷の土地区画整理事業の推進
 - 便利で快適に暮らせるまち
 - ・都市計画道路および生活道路の整備

「総合計画を推進」

- 連携と協働がささえるまち
- ・太陽光誘導標識灯の設置に関する協定書を民間企業と締結
 - 健全な行財政運営の自立したまち
 - ・西多摩郡町村電算共同運営を本格稼働

決算特別委員会で審査

議員から189件の質疑

町側から議案の提出を受けた議会では、直ちに決算特別委員会を設置し、委員長に高橋征夫議員、副委員長に齋藤成宏議員を選出。議長、議会選出監査委員を除く14名により、3日間にわたって審査を行いました。一般会計では、前年度と比較して歳入では約15億3,824万円(10・19%)の減、歳出では約14億9,301万円(10・21%)の減となっています。

各議員の賛否は9ページに記載



決算特別委員会での審査の様子



起立採決の様子(本会議)

一般会計決算における決算委員会質疑のピックアップを次ページ以降に掲載しております。

一般会計については、次のとおり賛成・反対の討論が行われました。(要約)

賛成

齋藤 成宏 議員

町長の23年度施政方針と決算書・事務報告書を照らし合わせた、ほぼ当初の方針通りの執行は達成できたと評価する。財政面では、健全化判断比率などのおおむね安心できる結果であった。各委員の質疑は、地域の生活者・納税者・有権者の「声」である。今後の予算編成に向けた糧として、活かすべきと考え、賛成討論とする。

反対

大坪 国広 議員

高齢者の生活環境は依然として深刻な状況にあり、多摩地域で実施している介護保険料・利用料の独自軽減策と在宅で寝たきりの支援を実施するべきであった。子ども医療費の完全無料化は1,650万円と23区と同じ水準になる。少子化対策のためにも実施するべき内容であった。栗原地区の区画整理は、新駅構想の見直しもなく「一時凍結すべき」であり、都道179号線の歩行者の安全対策を検討すべきであった。